

(別紙様式)

(A3判横)

# 平成31年度 学校自己評価システムシート (県立坂戸高等学校)

目指す学校像	文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校
--------	------------------------------

重点目標	1 確かな学力の向上と高い志を育む教科指導と進路指導の充実 2 リーダー育成を図る特別活動と部活動の充実 3 開かれた魅力ある学校づくりの推進
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価					年度評価 ( 月 日 現在 )		
年 度 目 標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	①「自学の文化」に基づく、朝自習や家庭学習に取り組む習慣は、ある程度定着しており、授業理解度は高い。しかし、年間をとおした家庭学習時間をより一層増やす必要がある。 ②予習を前提とした質の高い授業を実践し、予習→質の高い授業→復習のサイクルが定着し、一定程度の成果がある。さらに、教科間連携を密にしてバランスの良い課題設定が必要である。 ③年次研修の受講者のみならず、自主的な授業公開、研究協議が行われている。その成果を共有し、さらなる授業改善につなげることが課題である。また、高大接続改革、新学習指導要領を踏まえた活発な議論を積み重ねながらカリキュラムマネジメントを推進する。	①自学自習力をさらに進化させ、学力全体の底上げを進め、時間管理と学習習慣のさらなる定着を図ることができたか。 ②学習サイクルの定着を図ることができたか。 ③自主的な授業研究と組織的研修の組み合わせを推進することができたか。また、高大接続の授業改善に取り組めたか。	①朝・放課後自習、隙間時間学習を奨励し、学校生活手帳を活用した時間管理を図る。19時30分完全下校を徹底する。 ②1年生学習 OT・面談週間により、生徒の状況を把握し、予習・復習法の徹底を指導する。学習サイクルの定着を図る質の高い授業を研究する。 ③AL や ICT 活用など新たな手法による授業改善と自主授業研修会を推進する。また、授業アンケートや学習状況調査、実力テストや模試の分析を実施し、生徒の学力を把握する。さらに、指導法や教材の共有化・全教科の定期考査の統一化により、評価の改善を図る。 * 県教委指定事業：「質の高い学校教育の推進に係る調査研究」・「教育課程研究事業(総合進学指導拠点校)」・「学校間ピアレビュー」	①授業アンケートにより学習時間量調査を実施し、各学年で学年数以上の学習時間量を目指す。 ②面談週間や授業参観時に生徒の予習・復習状況を確認し、授業・学校アンケート等により確認する。質の高い授業(AL、ICT活用等)を面談により確認する。 ③授業公開を年3回以上、自主的な授業研究、組織的な授業改善の研修会及び研究協議を実施する。授業参観後には、フィードバックに基づく授業改善協議を実施する。また、全教科において、定期考査の統一化により、評価を改善する。併せて3観点別評価の在り方について研究する。			
	①生徒の高い志を育み、大学・短大の進学率(留学先を含む)は約8割である。「国公立大学及び難関私大」への進路実現、首都圏大学定員厳格化への対応が課題である。成績上位層の人数を減少させないよう、さらにきめ細かい指導と学習習慣の定着が必要である。 ②きめ細かな進路指導体制により、授業理解度、学校満足度は82%である。高大接続改革を踏まえ、最新情報に基づく適切な指導体制の改善・充実が課題である。 ③保護者のための進路勉強会「子どもの進学を考える会」は毎回300名近い参加を得て定着している。より一層の理解と協力を得るために、実施時期・内容を引き続き検討していく必要がある。	①明確な役割分担のもと、進路指導部・学年・教科・部顧問等が密に連携できたか。 ②生徒の高い志として「第一希望宣言」を確定し、その実現に向けて取り組まることができたか。 ③保護者の進路に対する理解度が深まったか。	①生徒の高い志を実現するため、スタサポや実力テスト、模試の結果分析をその都度おこない、指導方法の工夫・改善、個別進路指導に活用する、部顧問とも連携を密にし、多方面から生徒の指導・支援を行う。 ②生徒の高い志を育むため、総合的な探究の時間の指導方法の改善・充実を図る。進路目標を絞り込み、学習指導・進路指導を焦点化する。そのために、授業アンケートを年2回実施し、授業改善に活かす。 ③保護者のための進路勉強会「子どもの進学を考える会」の内容を精査し、1・2年生の進路選択から、3年生の出願指導の充実を図る。	①センター試験の受験者割合90%以上、進路目標校を「国公立大学及び難関私立大学」に設定し、国公立大20人以上、中堅以上の私立大学60人以上の合格及び、希望進路の実現を目指させることができたか ②授業アンケートに基づいて、学習時間が増加したか、授業理解度が増加したか、実力の変化、授業理解度・学校満足度85%以上を目指す。 ③1・2年生は具体的な進路希望を確定できたか、3年生は適正な出願指導状況を確認する。			
2	①「学校行事の文化」は、生徒が主体となり円滑に運営され、本校の魅力(強み)となっている。業務内容の過多を精選し、目的の明確化、運営規定づくりが必要である。 ②完全下校時刻19時30分を継続して、各部活動の実施及び学習との両立の徹底している。各部活動の効率的な年間練習計画と、記録の在り方を確立する。	①委員会と生徒会役員の仕事分担の明確化・効率化を図ることができたか。 ②部活動の在り方方針に沿った運営をすることができたか。	①活動マニュアルを改善し、生徒会活動の自主的な運営・生徒主体の生徒会行事を引き続き実施する。その上で実施時期、役割分担、作業日程の見直しを図り、生徒会役員への参加を促す。 ②活動記録を生徒間で共有し、主体的に効率的かつ、効果的な部活動を実施する。各学期の部顧問会議で情報共有を図る。	①行事日程、役割分担・作業行程の見直しを行い、効率化を図る。各行事における行程表とマニュアルを改善する。生徒会役員を10人育成する。 ②学校生活手帳の定期的な確認と隙間時間学習を奨励し、各部顧問・各担任による生徒情報の共有化を図り、多方面から生徒の指導・支援を行う。			
	①本校の活発な教育活動を、HPのリニューアル(閲覧数の確認策等)及び「スマート連絡帳」への移行・運用により、地域、中学生、保護者へ情報発信している。現広報活動は生徒募集部を中心に有効に機能しているが、近隣の人口減少への対応が課題。 ②校種間連携事業は片柳小を中心に、複数の部活動や生徒会で取り組んでいる。より一層地域に愛される学校としての存在意義を示せるかが課題。 ③PTA活動については、組織改編が確立し、行事の精選を含め円滑に運営されている。 ④創立50周年記念事業実行委員会が編成され、企画を検討し始めた。創立30周年以降、20年分の記録がまとめられていないため、記念誌編纂の準備を早急に進める必要がある。	①HP リニューアル等、多様な広報による情報提供を継続・拡充できたか。 ②近隣の小・中学校等との連携事業をプロジェクト化できたか。 ③PTA 組織改編後の調整及び行事の精選を進め、保護者の参加を促す、委員会活動の精選が実施されたか。 ④創立50周年記念事業実行委員会により、記念事業を具体化できたか。	①HP リニューアル、学校案内、マスメディアの活用など、多面的な広報活動に引き続き取り組む。生徒募集活動については、説明会参加や訪問、生徒を前面に出した説明会を実施する。多様で新しい広報活動を検討する。 ②近隣の小・中学校との連携事業を組織的・計画的に実施する。その際、事業の成果指標に生徒の活動前後での変容を盛り込む。 ③学校カレンダーの活用、「スマート連絡帳」の導入により、PTA と連携を密にし、活動の円滑な進行と保護者への行事の周知を徹底することにより、学校行事や公開授業・HR懇談会・保護者面談への参加者を増やす。 ④創立50周年記念事業実行委員会を3回以上開催する。記念誌編集部会による編集方針・構成等の検討を進める。また、記念事業の内容について具体化し、予算案を編成する。	①HP の更新回数、アクセス件数の増加、多様な広報回数を検証する。学校説明会への出席者数、中学校・塾説明回数、進学フェアなどでの個別相談者数を確認する。 ②小・中学校との連携事業の回数や本校生徒への効果(意識等の変容)等についても検証する。 ③保護者の学校行事への参加者数、授業公開やHR懇談会、保護者面談の参加状況の検証、スマート連絡帳導入率8割を目指す。 ④創立50周年記念事業実行委員会の開催状況、記念誌編集部会の立ち上げ・進行状況、記念事業の具体案・予算案の編成状況。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日 平成 年 月 日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		